

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K04917

研究課題名(和文)大規模災害における時間喪失とその回復過程に関する時間学的研究

研究課題名(英文)Temporal research on time loss and its recovery process in large scale disaster

研究代表者

辻 正二(Tsuji, Shoji)

山口大学・その他部局等

・名誉教授

研究者番号：10123936

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2016年の熊本地震などの大規模災害の被災者にとって、「時間が止まった」(「時間喪失」)という経験が何を意味し、またその「喪失」状態から「回復」状態へと至るメカニズムを解明することが目的である。被災地域でのアンケート調査、聞き取り調査を行うため、分析視点の検討、関連する研究成果の整理など、事前準備を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、調査を実施することができなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、地域社会の人々が大規模災害を体験することによって生じる「時間喪失」とその「回復」促進のメカニズムを解明することで、「安心・安全社会」の実現のための一助となる知見を見出すことが目的であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により調査を行うことができず、残念ながら研究成果の学術的意義や社会的意義を世に問うことはできなかった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to elucidate what the experience of "time stopped" ("loss of time") means to victims of large-scale disasters such as the 2016 Kumamoto earthquake, and the mechanisms that lead from this "lost" state to a "recovered" state. In order to conduct a questionnaire and interview survey in the affected areas, we made preliminary preparations, including examining our analytical viewpoints and organizing relevant research results. However, due to an outbreak of coronavirus infection, the survey could not be conducted.

研究分野：社会学

キーワード：時間喪失 災害 同期 回復過程 コミュニティ グリーフ・ケア

1. 研究開始当初の背景

わが国は、2011年3月に発生した東日本大震災によって2万人を超える尊い人命を失い、しかも予想外の福島原子力発電所事故の発生により、現在でも被災者が自宅を後にして帰宅困難者の状況にある。その後も、大きな災害は後を絶たず、2014年の御嶽山噴火災害、2016年の熊本地震災害、2018年北海道地震災害など、このところ甚大な大規模災害が2年周期で頻繁に起こるようになってきている。そして、この大規模災害に遭った被害者から被災時に「時間が止まった」という言辞の時間表象を耳にするようになった。

本研究では、この「時間が止まった」という状態を「時間喪失」と呼び、この現象の発生から消滅までのプロセスを射程におく時間学の視点から、時間喪失者がどのようにしたら「喪失」の状態から「回復」の状態に至ることができるかを解明することを目指している。

2. 研究の目的

本研究は、「大規模災害における時間喪失とその回復過程に関する時間学的研究」という研究課題名で、地域社会の人々が大規模災害を体験することによって生ずる時間喪失とその後の回復促進のメカニズムを解明して、「安心・安全社会」の実現のための一助となる知見を見いだすことを目的としている。

本研究では、この「時間が止まった」という状態を「時間喪失」と呼び、この現象の発生から消滅までのプロセスを射程におく時間学の視点から、時間喪失者がどのようにしたら「喪失」の状態から「回復」の状態に至ることができるかを解明することを目指している。

3. 研究の方法

専門を異にする4名の研究者（辻正二、徳野貞雄、泉賢祐、内田和美）の研究担当は次のとおりである。

（1）辻は特に全体の総括を担当するが、時間学の視点から、「出来事」の研究、「動き」、「意味づけ」の理論的枠組などの考察を行い、都市部環境での被災者を中心に考察する。

（2）徳野は地域社会学を専攻することから、島原の火砕流被害の頃から災害に関心を持っており、2年前の熊本地震以後、熊本で災害避難者の研究をしている。「家族の喪失」を集落点検で解き明かす。特に、過疎山間地などの農村社会において「時間喪失」の内的変質化のメカニズムを聞き取り調査によって明らかにする。

（3）泉は社会福祉学の研究者で、現在、「医療同意能力への支援」を必要とする者への、適切な個別的支援方法と人権に配慮した違法性のない支援制度の研究をしており、科研の研究課題として福祉による回復過程を担当する。泉は「グリーフ」と「グリーフ・ケア」に関心があり、「時間喪失」と「回復過程」、また「同期化」の変化のプロセスについて検討する。

（4）内田は、経済地理学を専攻しており、今回の研究では、「回復過程」を担当し、時間喪失者とグリーンツーリズム（観光＝光を観る）の視点から時間喪失者などへの癒しの創出、そのプロセスについて探る。

以上のような研究アプローチによって、被災地域でのアンケート調査や聞き取り調査を実施する。具体的には、初年度は、4名が各自の研究の全体の見取り図や分析枠組などを形成するために、資料収集や研究会などを行い、研究対象となる調査地を本格的に決定する作業を行う。徳野が熊本地震に詳しいので、調査地域を熊本地震の地域を中心にし、また、比較研究のために都市部地域と農村部地域も選定したいと考えている。

次年度は、時間喪失を中心にした調査を実施する。

最後の年度には、調査のデータを解析して、本研究の研究成果をまとめる。そのために4人で行った研究を報告書としてまとめると共に国内外の学会で成果を発表したいと考えている。

4. 研究成果

研究期間中は、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況が継続していたため、調査地でのアンケート調査、聞き取り調査が困難な状況であった。各研究期間中の研究成果は以下のとおりである。

（1）令和元年度

代表者の辻と研究分担者の3名とが研究企画と実施に当たって必要な情報や研究成果の整理を行い、次年度実施の調査研究の分析視覚を具体化するためのものであった。そのなかで、代表者の辻が時間学の視点で、「時間が止まった」という現象の解明を目指ために必

要な視点を指摘し、分担者とともに研究会を開催した。徳野は、熊本震災の経験者で、長年震災復旧に強い関心を持っており、彼に加勢を仰いだ。保健医療経営大学の泉と内田には、それぞれ泉が社会福祉学の観点から、内田が経済地理学の立場から参画してもらった。初年度の目標は、本研究の課題に迫るために、どのような調査の視点が必要かを検討した。徳野は、熊本震災発生時に学生アンケート調査（記述データのみ）をしており、その分析を内田と辻の両名で試みた。その他、徳野からは、西原村のアンケート調査のデータ（実施済み）を見せてもらい、その分析も試みた。その他、熊本震災後に出版された報告書や書物を収集して、熊本震災の課題等を把握することに努めた。以上から、調査の候補地として一番被害の大きかった益城町と山間地の西原村を選定した。

(2) 令和 2 年度

調査計画地である熊本地域で新型コロナウイルス感染症が蔓延していたため、調査地に入り、聞き取り調査やアンケート調査は出来なかったが、理論面での研究仮説を立てるなどの考察を行った。

(3) 令和 3 年度

アンケート調査の質問項目を作成し、熊本県内の二地点で調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症が終息せず、本研究課題に基づく聞き取り調査の実施が極めて困難な状況にあった。そのため、時間喪失に関する文献を集め、その文献考察から社会的時間に関する理論的な研究を行った。

(4) 令和 4 年度

研究課題を遂行する時期に調査地（熊本県益城町）で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、調査を実施することができなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 泉賢祐、辻正二、榑木浩朗、小手川巧光	4. 巻 第11号
2. 論文標題 医療同意能力支援の現状と課題 医療及び介護福祉施設における治療同意能力支援に関する調査の概要	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健医療経営大学紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉賢祐、辻正二、榑木浩朗、小手川巧光	4. 巻 第12号
2. 論文標題 障害者支援施設における意思決定能力支援に関する研究（その2）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保健医療経営大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳野貞雄	4. 巻 50
2. 論文標題 書評 芦田裕介著『農業機械の社会学 モノから考える農村社会の再編』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農村社会研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 44 - 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 徳野 貞雄
2. 発表標題 日本における小農。有機農業・生活農業論
3. 学会等名 有機農業学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徳野 貞雄
2. 発表標題 戦後日本の農村社会学は、何を追いかけてきたのか
3. 学会等名 社会分析学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 泉賢祐
2. 発表標題 社会福祉法人制度改革についての考察 - 社会福祉法人の事業展開等に関する検討会資料より -
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徳野貞雄
2. 発表標題 百姓・農民（生産者）。小農について－昭和前期・昭和後期・平成期の農村社会学の対象の変遷
3. 学会等名 西日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳野貞雄
2. 発表標題 過疎地域の「三層型居住の生活構造」 - 世帯の分散・極小化を軸に -
3. 学会等名 日本村落研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳野貞雄
2. 発表標題 伊仙町における出生率の高さの社会的説明
3. 学会等名 私たちの幸せ再発見シンポジウム
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 泉賢祐 「居宅介護支援事業者」他、8項目を担当	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 471
3. 書名 九州社会福祉研究会（編） 『21世紀の現代社会福祉用語辞典 第2版』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	徳野 貞雄 (TOKUNO Sadao) (40197877)	熊本大学・大学院人文社会科学研究部(文)・名誉教授 (17401)	
研究分担者	泉 賢祐 (IZUMI Kensuke) (20516976)	保健医療経営大学・保健医療経営学部・教授(移行) (37127)	
研究分担者	内田 和実 (UCHIDA Kazumi) (30232846)	保健医療経営大学・保健医療経営学部・教授(移行) (37127)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------